

一瀬益夫教授退任記念号の発刊に寄せて

一瀬益夫教授が定年まで1年を残して2018年3月に東京経済大学を退任されました。1975年3月に経営学部助手として赴任されてから43年の長きにわたり本学の教育、研究にご尽力いただき、経営学部および本学の発展に尽力されたことに感謝申し上げます。この度、経営学部の多くの先生方から記念号を刊行したいとの強い希望が出され、先生のご退任を記念する『東京経大会誌（経営学）』記念号を刊行させていただくことになりました。

一瀬先生は1948年5月に長野県に生まれ、高校時代までを故郷の長野県で過ごされました。その後一橋大学に進学され、1972年3月に同大学商学部商学科を卒業、さらに勉学を続けるため大学院に進まれました。1977年3月に一橋大学大学院商学研究科博士課程を単位修得満期退学なさいました。大学院博士課程在学中の1975年4月に本学経営学部助手として赴任されています。大学院博士課程をおえられた77年4月に東京経済大学経営学部専任講師にご昇任され、1981年4月に経営学部助教授、93年4月に同教授になられました。学部では主に管理工学や経営情報システム論の授業を担当されました。また1982年5月から83年3月まで、国外中期研究員として米国のUCLAに留学され「経営意思決定への外部諸力の影響メカニズムとコンピュータ・ベースの経営サポートシステム」をテーマに研究を進められました。また88年6月から9月にも「米国内企業における意思決定支援システム(DSS)の開発及び利用の実態調査」のため短期留学されました。2002年から2年間、経営学部長を務められたほか、2008年4月から2012年3月までの4年間は副学長の重責を担われました。先生の長年のご功績に対し、2018年4月に東京経済大学名誉教授の称号を贈らせていただきました。

ご研究面では、意思決定と情報システムの関係について多くの研究に取り組まれました。組織における意思決定問題の研究に始まり、意思決定と情報システム、情報通信技術の関係、さらには企業経営と情報リテラシーへと研究範囲を広げられ、経営情報管理や情報リテラシーの分野で多くの著書や論文を刊行されています。専門書の他、現在でも「情報リテラシー入門」や「情報リテラシー応用」の教科書として改訂版が利用されている『現代情報リテラシー』の著者、編者であり、この分野の著名な研究者の一人でもあります。

先生は本学のコンピュータシステムや情報処理教育を確立された功労者でもあります。電算機導入検討委員、電算機設置準備委員、電子計算機室運営委員、次期電算機の機種選定のためのハードウェア検討専門委員、特修コース（情報処理）研修講座協力委員、電算機システム調査検討委員長、電子計算機室運営補佐、同委員長、情報ネットワーク委員長など委員会名を書くだけでも多大な貢献が容易に推測できるように、コンピュータ関係や情報処理教

一瀬益夫教授退任記念号の発刊に寄せて

育に係わる数多くの役職に就かれました。まさに東経大の情報化・教育の礎を築かれたと言えます。

研究者、教育者の傍ら学部長、副学長として学部や大学の運営に長年携わり、首都圏の上位大学を目指して様々な基盤を整備されて来られました。学部長時代に手がけた学部カリキュラムの大規模な変更をはじめ、副学長時代には、久木田学長の下で本学の創立110周年記念事業として新5号館や新図書館の建設に取り組みられました。当時のキャンパス計画はグッドデザイン賞を受賞するなど内外から高い評価を受けており、これが武蔵野の面影を残す自然豊かで美しい、現在の東経大キャンパスにつながっています。東経大への熱い思いと発言力や実行力を併せ持つ、まさに「進一層」の精神を体現する先生でありました。教授会をはじめとする会議等では、先生がおられるだけで場の雰囲気が引き締まり、緊張感ある議論が展開されたことを昨日のように思い出します。

長年にわたり我々を御指導して下さった先生のご退職は大変残念なことです。今後のご健勝とますますのご活躍を祈念して、感謝の言葉に代えさせていただきます。

2019年12月

経営学部長 青木 亮